

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

|      |   |
|------|---|
| 対象部局 | 国際学部  |
| 大項目  | 6 教育内容・方法・成果  |
| 中項目  | 6.4 成果  |
| 小項目  | 6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。                                   |
| 要素   | 学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用<br>学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価) |
| 小項目  | 6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。                             |
| 要素   | 学位授与基準、学位授与手続きの適切性<br>学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)    |

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2010年度に設定した「目標」                | 左記目標の「指標」   | 進捗状況(達成度)評価 |      |      |      |      |
|--------------------------------|---|-------------|------|------|------|------|
|                                |   | 2009        | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 社会の一つの評価となる就職決定率を90%以上確保する。 | → 1. 指標 : 就職決定率<br>評価基準 : 90%以上…評価A、85%以上…評価B、80%以上…評価C、80%未満…評価D (評価Bを目指す) | /           | D    | D    | D    | A    |
| ☆                              |   |             |      |      |      |      |
| 2011年度以降に設定した「目標」              | 左記目標の「指標」   | 2009        | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|                                | →   | /           | /    | /    | /    | /    |
|                                | →   | /           | /    | /    | /    | /    |

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

|     |   |   |   |
|-----|---|---|---|
| 目標1 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか<br>キャリア委員会を設置し、キャリア講演会を実施して学生の就職に対する意識を高める取り組みを行った。また正課では経済・経営特別演習にて各界からゲストスピーカーを招聘して同様の取り組みを行った。教員に対しては、FD研修会にてキャリアセンターから講師を招き、当該年度の就職動向、就職指導等に関する講演を実施した。 | ☆ |
|     |   | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か<br>就職希望者に対する就職率は99.0%(男子100.0% 女子98.6%)、明確に進路を決定して卒業した学生の比率を表す就職・進路決定率【(就職決定者+自営)/(卒業者-進学決定者)】は89.8%(男子91.8% 女子88.9%)と、商学部、教育学部に次ぐ結果となった。                                 | ☆ |
|     |   | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か<br>業界別の輩出動向をみると、金融・保険業界への輩出率が低く、航空業界をはじめとする運輸業や旅行業界への輩出が高いのが特徴的だった。一方で、航空業界や旅行業界にねらいを絞って活動している学生が見受けられ、BtoBのメーカーをはじめ、もっと広くアプローチするよう指導する。この一環として、キャリア委員会主催によるキャリアシンポジウム等を実施し、指導の一層の充実を図っていく。 | ☆ |
|     |   | その他   | ☆ |
| 備考  |   |   | ☆ |